

JCIウェビナー

レース・トゥ・ゼロ要件改訂のポイント

高瀬香絵

CDPジャパン

アソシエイト・ディレクター





傘組織 : Race to Zero

多くのイニシアチブはRace to Zero傘下であり、そのルールに従う流れ



	企業	金融機関	教育機関	医療機関	都市	地域	その他
世界	7522	555	1114	63	1122	52	25
日本	62	24	2	0	75	1	0

※赤字は日本において増加傾向の分類。

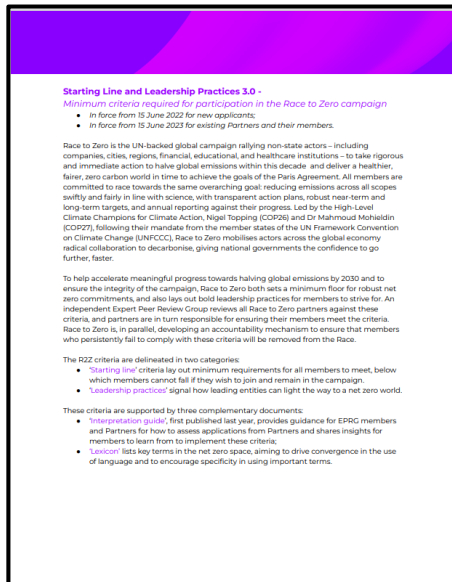


3つの文書

要件・解釈ガイド・用語集



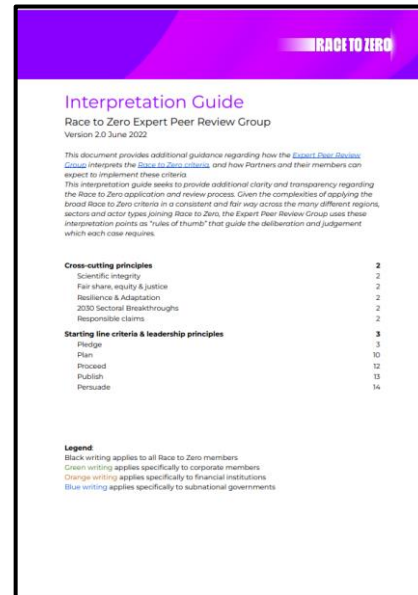
要件(Criteria)



原文

日本語仮訳

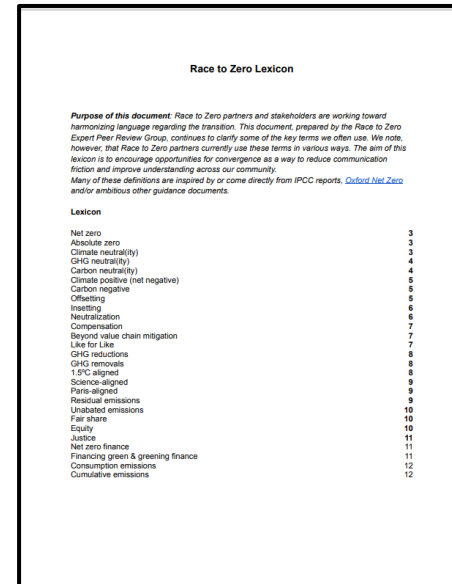
解釈ガイド(Interpretation Guide)



原文

日本語仮訳

用語集(Lexicon)



原文

4か月にわたるコンサルテーションについてはこちらを参照。

※赤字は今回3.0における追加・改訂箇所。



要件の構造

スタートライン要件とリーダーシップ原則

	スタートライン要件	リーダーシップ原則
Pledge 誓約	できるだけ早く、遅くとも2050年までのネットゼロ、2030年までの半減。化石燃料の段階的削減・廃止。 (対象範囲等として、企業はスコープ1・2・3、金融機関はポートフォリオ/投融資/有価証券の発行業務に伴う(facilitated)/保険排出量、自治体は領土、全主体土地利用を含む)	ゼロ排出またはネットネガティブを目指す。累積排出量、自治体は消費ベース排出量も含む。排出削減と吸収の2つの目標を保有。メタン・他のGHGの短期目標を持つ。自然保護。2030ブレークスルーへの貢献。
Plan 計画	加盟後12ヶ月以内に、移行計画、都市・地域計画、ないしは他のレース・トゥ・ゼロ要件の全てをどのように満たすかを示す同等のものを一般に公開する。そこには、今後12カ月の間、2-3年の間、そして2030年までにどのような行動をとるのかを記載する。	公正な移行を支援。自然を統合。ステークホルダーに力を与える。
Proceed 進める	(ネット)ゼロ達成に向け、中間目標の達成に合う利用可能なあらゆる経路を通じ、直ちに行動を起こすこと。必要であれば、セクターごとのブレークスルーに貢献すること。	自らの領土/バリューチェーンを超えて貢献する。高排出セクターを優先させる。気候解決策の大規模化。あなたのエコ・システム(生態系)に力を与える。
Publish 公開	少なくとも年1回、中間目標および長期目標に対する進捗状況、および実施中の活動を公開した形で報告すること。標準化されたオープンなフォーマットで、UNFCCC Global Climate Action Portalに対応したプラットフォームを通じて報告すること。	自らのバリューチェーンまたは領土の内を超えた進捗を報告しましょう
Persuade 説得	参加から12ヶ月以内に、業界団体の会員であることも含めて、対外的な方針やエンゲージメントを、2030年までに排出を半減し、2050年までに(ネット)ゼロに到達するというゴールと整合するようにすること。	野心の輪(Ambition Loop)を活性化させましょう。(ネット)ゼロへの整合を主流に。

レース・トゥ・ゼロ要件改訂のポイント(3.0版)



<スタートライン要件>

- 排出削減対策をしていない(unabated)化石燃料の段階的削減・廃止を明記。
 - 企業・投資家は1.5°C経路と整合したシナリオに沿って、新たな石炭プロジェクトについては開発を制限すること。
- 移行計画を公開することを明確にしたこと。(参加から12カ月以内。既存メンバーについては2023年6月までに)
- 全メンバーについてすべてのスコープを対象とすべきことを明記。金融機関については投融資先/ポートフォリオ/有価証券の発行業務に伴う(facilitated)排出量(先のスコープ3も含む)を含みます。
- 新たな要件として「説得」を追加。メンバーはロビー活動や政策提言(advocacy)活動において、ネットゼロと整合し、気候政策を支持すること。

<リーダーシップ実践のテーマ>

- リーダーシップの根幹に「自然」を組み込むこと。生物多様性を保全し、森林減少を止める。
- 自らのバリューチェーン内・領土内を超えた、世界全体のネットゼロへの貢献を推奨。
- コミュニティや関係者に力を与えること。

解釈ガイド

専門家審査グループ(EPRG)の指針



専門家審査グループ(EPRG, Expert Peer Review Group)は、レース・トゥ・ゼロ・パートナーの申請書を審査し、イニシアチブが参加のための最低基準を満たすかどうかについて、チャンピオンに対して独立した勧告を行う機関として設立されました。

EPRGは、ネットワークやイニシアチブからの申請を順次検討していきます。EPRGは、科学的、技術的な専門家と、レース・トゥ・ゼロパートナーからの代表者を含む、関連する経験を持つ実務家によって構成されています。EPRGのメンバーは、所属組織の代表としてではなく、個人の資格で活動しており、時間に対する報酬や見返りはありません。

解釈ガイドより：横断的原則



科学的十全性 (Scientific integrity)：緩和行動がもたらう、人種・性別・世代間公平性を含む、より広範な社会的影響を考慮すること。SDGs、パリ協定第2条・4条・前文に基づき、公正(justice)を考慮する。

レジリエンスと適応(Resilience & Adaptation)：レース・トゥ・レジリエンスにも参加しましょう。

2030セクター別ブレークスルー(Sectoral Breakthroughs)：気候チャンピオンが作成したロードマップ。セクター別にどういったアクションをいつまでにとるべきか、等が詳細に記載されている。

責任のある主張(Responsible claims)：用語集(Lexicon)に沿った目標、行動、進捗を責任をもって主張しましょう。

解釈ガイドより：誓約(Pledge)

スタートライン要件(ハイライト)



項目	解釈ポイントのハイライト
1. 最終目標とネットゼロの主張	2050年までにネットゼロ(削減し残余分は永続的除去によって中和) ネットゼロ移行途中に永続的中和ではない場合はカーボンニュートラルの方が適切
2. スコープ	スコープ1・2・3、領土排出の90%以上をカバー。土地利用からの排出も含む。一次データの活用を促進すべき。広告排出量、サービス提供先排出量も含めるべき。
3. 時間軸における公平な分担と公平性、そして排出削減率	公正な分担については、時間軸にて調整すべき。半減を2030年とするか、それより先とするかは調整できるが、2050年ネットゼロは必須。2030年までに50%削減することは、年率7%の削減を意味するが、セクター等の状況によって調整可能。
4. 適切なシナリオ	広く認知されたもの。オーバーシュートはなし、または制限。SDGsへ配慮。現在利用可能なエネルギー効率化・再エネの既存技術の採用加速を優先すべき。除去技術開発への貢献を推奨。
5. 化石燃料の段階的削減と廃止	石炭火力の新規建設は即時停止し、OECDでは2030年までに、非OECDでは2040年までに石炭火力発電をフェーズアウト、油田・ガス田の新規建設はしない(IEAネットゼロシナリオ)。エンゲージメントが重要。
6. 森林減少を食い止める	遅くとも2025年までに操業・サプライチェーンの森林減少を食い止める約束を設定。生態系の劣化につながる活動を削減、ストップ。
7. 総量vs原単位排出量	総量、必要な場合は原単位(鉄鋼セクターの脱炭素技術への投資は、一次的に投融資先排出量を増加させる可能性もあるが、経年で見ると原単位は減少するはず)も設定。

解釈ガイドより：誓約(Pledge)

リーダーシップ原則(ハイライト)



項目	解釈ポイントのハイライト
8. より野心的目標	ネットゼロを超えて、総量ゼロまたは気候ポジティブ/ネットネガティブ目標を設定
9. 累積排出量	ネットゼロに達するまでに排出してしまう排出量（累積排出量）についても、対応を行う
10. その他ガス	他のGHG、特にメタン目標を持つ。石油・ガス企業は特に。
11. 2つの目標を誓約する	残余排出の中和を超えた除去を行う目標を設定する。毎年排出してしまった分の補償を行う（削減の代替ではなく）。
12. 自然を保護する	操業やバリューチェーンにおいて、プロジェクトレベルではなく、景観レベル・管轄レベルでの森林、湿地、その他生態系保全を、中和と関係なく即時に支援する。
13. 炭素市場	バリューチェーンを超えた緩和を、自らの削減の代替ではなく、追加的に支援する（クレジット等）。クレジットについては高品質のもの、検証を受けたものを利用し、透明性高く報告する。他のSDGsへの貢献等のコベネフィットも重視する。
14. セクター別目標の設定	セクターに関連する目標を設定する。(2030ブレイクスルーなど参照)